

対面リーディング通信

2024年12月1日 発行 第220号（隔月刊）



2024年 12月



今年も1年間、ありがとうございました。

今年もあっという間に残り1ヶ月となりました。今年も対面リーディングにご協力いただきまして、ありがとうございました。

幸いにもコロナ禍は比較的落ち着いた状況が続き、年間を通して対面リーディングを実施できました。今後も感染防止に努めつつ、できることから徐々に活動の幅を拡げていければと思います。

来年もどうぞ宜しくお願いいたします。

今月号の主な内容

私のふるさと	渋川神社	宮崎 裕子	2
誌上勉強会	読む・読まない	木村 謹治	3
寄り道・回り道	しんぱち食堂 西梅田店	木村 謹治	7
情報発信	対面リーディングQ&A再掲（その1）		8
情報発信	漢字あれこれ（その23）	澤井 稔	9
お知らせ			10

しぶかわ

渋川神社

みやざき ゆうこ

エンジョイ・グッズサロン 宮崎 裕子

JR八尾駅から徒歩三分のところにある、渋川神社。幼少期のわたしの「庭」でした。

境内にある大楠は、樹齢千年の高さ16メートル、幹の周囲が7メートルの大きなもの。木登りには無理のある大きさですが、果敢に挑戦したものです。

なんと挑んでも、いつも同じところで、滑り落ち、ずりずりの擦り傷だらけになっていました。

広い境内には、ほかにも大小の木がたくさんあり、登ってみたり、手ごろな枝を折ってみたりとやんちゃ放題。

神社を囲う瑞垣に、^{みずがき}狛犬に、石灯籠にもよじ登り、またいだり、飛び降りたり。手水舎では、水遊びだけではあきたらず、手水鉢に砂をいれ、ショベルカー（もちろんオモチャの！）でかき回し、用もないのに鈴を鳴らしまくって神主に怒鳴られ……よくバチが当たらなかったものです。



（イラスト：宮崎さん）

そんな渋川神社の夏祭りは、それは盛大なものでした。

大きなお神輿は重さももちろん相当で、担ぐ大人が汗だくになっていたのが印象的でした。若いころに担いでいた祖父の話によると、担ぎ棒にあたる肩の皮がむけてしまい、祭りが終わると、大の男がそろって寝込んでしまう程だったそうです。

祭りの時の、親戚が集まっての食事は、^{はも}鱧の焼き物や湯引きが並び、とても楽しい行事でした。また、その日ばかりは、綿菓子やお面、風船などを夜店で買ってもらえるのがとても楽しみでした。

遠くに聞こえる宮入のお神輿の歓声。うちわで扇いでもらいながら、祭りの終わりを聞き届けようと、夜遅くまで眠らないように頑張っていた夜が懐かしく思い出されます。



学校を卒業し故郷を離れ、いろんな街に住み、20年近く経って帰ってきました。

流れる風やふとした音など、街の空気の中に幼い日の思い出が甦るようで、やっぱりここが故郷なんだなと感じます。

ここではない、どこか遠くに行けば、素晴らしい「なにか」があると信じて、いろんなところに行ってみたけれど、もしかしたら私にとっての「なにか」は、虹の向こうではなく、この故郷にあったのかもしれない。

対面リーディングの実際 65

－ 読む・読まない －

対面リーディングでは図書に書かれている内容を伝えることを主眼としています。

しかし、文字として書かれているのに読まない、読むと焦点がぼやけてしまったり、読むことで分かりにくくなる場合があります。

それとは反対に、文字を読むだけでは意味が伝わらないこともあります。

今回は「読む・読まない」をテーマに話を進めていきます。

日本語の歴史をたどると、句読点が使われたのは、それほど古くありません。例えば「源氏物語」には句読点がありません。かつては係り結びの法則や「候」などの文字が文章の切れ目を示す句読点的な意味合いで使われていました。

現在の形式に近い句読点が整備されたのは明治期以降です。文法が簡略化された言文一致が進み、話し言葉なら発声や抑揚の違いで伝わっても文章だと読み間違いが出るため、区切りを明確にする必要が高まったといえます。

次の文章を読み上げて下さい。「ここではきものを脱いでください」

いかがですか、句読点がないと「ここで履き物を」なのか「ここでは着物を」なのか分かりません。常識的に考えると「着物」はあり得ませんが。単語の切れ目に読点を打つことで、誤読の防止にもつながります。

句読点はまさに記号なので、意味が伝わるのなら、なくても問題はありません。

記号である句読点は「てん」とか「まる」と読み上げることはありませんね。読み上げる記号が多い中、珍しい存在です。

一方でLINEなどにおける短文化は、行間や余白を大事にした日本の『わび・さび』文

化とは対極にあると思います。

「マルハラスメント」という言葉をご存じですか。チャットなどのやり取りで、テキストの最後に「。」をつけると、相手に威圧感や冷たい印象、怒っているような印象を与えると感じる若者が多数存在するようです。

文化庁が行う「国語に関する世論調査」では、「句読点等の使い方に関して、何か困っていることがあるか」の設問に対し「困っている」の回答は11年の24.1%から17年は17.1%に減りました。

句読点に関して実際に気にする人はそこまではないのですが、最近の傾向なのかハラスメントという言葉が出るのが驚きです。

スタンプでのやりとりが普通になり、句読点どころか文字を打つのがハラスメントと言われてしまうと怖いですね。

昔からの日本語には句読点の概念がなく、明治以降に欧米の文書を真似て句読点が打たれるようになったというのが実際の所のようです。それに比べて、カンマ・ピリオドは16～17世紀には聖書の翻訳に用いられ、江戸時代に聖書と共に日本に入ってきたとされています。

『そもそも、現代日本語の句読点が定着し始めたのは、明治20～30年頃のことであって、カンマ・ピリオドと比べてその歴史はかなり浅いです。』

上記のカギ括弧の中の文章は句読点の事を説明したのですが、何か違和感を感じませんか。そうなんです、読点が「、」ではなくカンマ「,」が使われています。現在でも公文書や法令、裁判所など各方面で使われていますが、徐々に読点「、」が使われるように

なっています。

理科系の文書では「読点は全角カンマ（,）と句点は全角ピリオド（.）」が使われます。やはりカンマとピリオドでは違和感を感じ読みにくいですね。

ここから本題に戻って、対面リーディングでは、句読点がカンマとピリオドが使われていますと違いを説明した方がいいのでしょうか。

戦後、文部省はそれまで文語体縦書きだった公用文の大改革に着手し、また句読点「,。」の使用があたりまえになりました。

句読点ではありませんが、位取りのコンマは読みませんね。例えば「2,100円」を「に こんま ひゃくえん」と読めば間違いの元です。

ルビも時代とともに変わってきました。

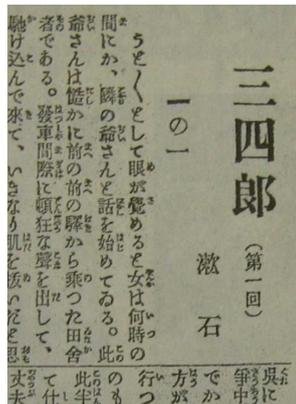
昔の新聞や図書の中には総ルビのものが沢山ありました。右の写真は1908年（明治41年）に朝日新聞で連載が始まった夏目漱石の『三四郎』です。

総ルビなのは当時は識字率が低いのが原因ではないかと思われま。義務教育が4年ないし6年しかなく、それさえ充分に通えないような家庭も少なからずあった一方で、口語体が未成熟の当時は新聞の記事は主として文語体で書かれ、難しい漢語も多かったわけですから、内容を読んで理解してもらう上でルビの重要性は今よりもずっと高かったのではないのでしょうか。

ルビがあれば読めない漢字があっても読めるので便利ですが、皇帝を「てんし」、政府を「おかみ」、帽子を「かむりもの」とルビを振った例も見かけます。

余談になりますが、点字図書は音を表す記号、平たく言えばかなで書かれています。どんな難しい内容の図書でも年齢を問わず読むことが出来ます。但し図書の内容を理解できるかは別問題です。

最近では外国からの来日客が増えています。そんな方にもルビがあれば便利です。



「この貯水池の水位は、発電のため、変動があって、危険ですから十分御注意下さい」と注意喚起がされています。

ところどころに振ってあるルビを見ると、変動（あがりさがり）／危険（あぶない）／十分御注意（よくきをつけて）と、本来とは違う読み方で書かれています。

難しい言葉を、平易な日常語に直し、子供にも意味が通じるように配慮しているようです。外国から来た人にもありがたいですね。

では、読み上げる場合は、どんな工夫をされますか。

もう一つ「危険」という文字は赤色で書かれています。視覚的には目立つように工夫されたものですが、色の違いを説明しますか。

強調する方法として、下線や傍点などを使用することがよくあります。僕自身、これは大事だと思う個所はマーカーペンで色を塗ります。これと同じ効果をねらったものですね。

考え出すと、短い文章でも奥が深いですね。

アミロイド（Amyloid）とか、習近平（しゅう・きんぺい）、尹錫悦（ユン・ソンニョル）など外国語や人名・地名などにもルビが振られることが増えてきました。突き詰めて考えて見ると、中国人は日本語の音読み、韓国人は現地読みの差がありますが、

[注] 丸括弧「()」内の文字は単語の上に振られたルビと解釈して下さい。

最近では、さらに強敵が現れました。劇画の世界にとんでもないルビが蔓延して、どう読めば良いのか判断に困るものが多々あります。



話とんでるわ（ミッシングリング）／憤死寸前（三国志の死に方）／Let it go（うるせえバカ）／ママア（ボヘミアン・ラブソディー）と書かれています。

劇画ではないですが音読（おんどく）できない

音読（音声化）できない

音読できない（困りました）

[注] 下線の部分に丸括弧内の文字がルビとして振られていると考えて下さい。

1行目は漢字とルビが同じなので問題はありませんが、2行目は微妙に意味合いが違って、3行目は心象でしょうね。

表現方法が多彩になるのは大歓迎ですが、声で読む方はますます工夫を要求されますね。

子供からこんな質問がありました。朗読の時って「()」は読むものなののでしょうか？

「かっこ OOOO かっこことじる」と読むのは当たり前なののでしょうか。「僕は（本当は嫌だったが）母の手伝いをした。」といった文章を「僕はかっこ本当は嫌だったがかっこことじる母の手伝いをした。」「CO₂（二酸化炭素）」を「CO₂ かっこ二酸化炭素かっこことじる」と読むのか・・・ということです。

皆、当たり前のように読んでいたし先生も何も言わなかったけれど、私は学生時代から何か変だなあと思っていました。

私が「かっこことじる」を省略して「かっこ」とだけ読んだら先生からキチンと読むようにと注意された事もありました。

こんな回答を寄せる人もあります。

「朗読なのか音読なのかの違いもあります。朗読も音読も声に出して読むのは同じですが、朗読は「感情をこめて読み上げる」という意味あいも含まれます。言い換えると「朗読」は、物語や小説を感情を込めて読むことですので括弧を一々読み上げることは邪魔になります。しかし、音読の場合は書いてあることを正確に読み上げる必要があるので括弧は読むべきだと思います。お挙げになっている文ですと間違えることはないでしょうが、法令などで括弧のあるなしで意味が変わる場合もあります。」と書かれています。

「CO₂（二酸化炭素）」なら文字数が少ないので「かっこ」という言葉が入っても、すぐに理解できますが、「僕は本当は嫌だったが母の手伝いをした。」は一連の文章です。その中に急に「僕はかっこ本当に」と読まれると「ええ」と頭が困惑します。

でも、著者は「本当は嫌だった」事を強調したかったのではと思いますが、いかがでし

ょうか。

例えば、「僕は本当は嫌だったが母の手伝いをした。」と表示したり、上に傍点を付けた文章ならどう読みますか。

同じように感情を表す「！」「？」はいかがでしょうか。

ああ すっかり寝入ってしまった

ここはどこ？

あっ そうだ！

この車窓の景色は

もうすぐおばあちゃんの家だ！

先ほどの子供の声を借りれば「！」「？」は読まなくても良いのではという意見に傾きます。

ただ、読み上げた方がいい場合があります。機械的に処理することは出来ません。

またまた脱線です。テープ起こしの業界用語になるのかも知れませんが「ケバ取り」という言葉があります。

テープ起こしとは会議や講演会などの録音資料をテキスト文字にする作業のことです。視覚障害者の方も職業として働かれている方もいます。

ケバ取りの正確な定義というのはありませんが、本来の意味を失って文章を読みづらくし、内容の把握を妨げる言葉を「毛羽（けば）」と呼び、これらを構成する接続詞、副詞、助詞、しゃべりぐせ言葉等を取り除く作業を「毛羽取り」と言います。

「もう」、「こう」、「やっぱり」、「やはり」、「で」、「えー」、「このー」、「そのー」、「うーん」、「あー」、「うー」など、「口癖」となっている無機能音・無意味音は、極力削除します。「えーと、なんだっけ」もなくてもいい場合は削除するそうです。

また、「来週の月曜日、いや火曜日」など、明らかな言い間違い、とちりを削除・修正すると書かれています。

それに対して、聞こえたままに文字を起こす方法を「逐語起こし」（ちくごおこし）と言うそうです。

録音図書や対面リーディングでは書かれた文字を読み飛ばすことは出来ませんが、テープ起こしではケバ取りがされている方が読みやすいかも知れませんね。

日常的によく使う表記法として、日付は
2024年11月14日
2024.11.14
2024-11-14
2024/11/14
などが思い浮かびます

電話番号では
0859-23-5372
0859(23)5372
(0859)23-5372



価格表示では
100円
¥100

などがあります。

通常は「2024 ハイフォン 11 ハイフォン 14」とは読みません。「2024年11月14日」でしょう。

また「えんまーく ひゃく」ではなく「ひゃくえん」と読むと思います。

文字を目で見ると何の違和感もない言葉でも、音にすると変に思えることが多々あります。

本を眺めてみると、読まない文字が意外と存在します。ページ数は読みませんね。ヘッダー・フッターも同様です。会話文のカギ括弧（『』）も「カギ括弧開き～カギ括弧閉じ」などと読み上げることもありません。

記号ではないのですが、改行や段落も読みません。

書体の違いも読まないし、書体名を教えられてもピンときません。文字の大きさも伝えないことが通常です。ゴシックや斜体（イタリック）などの表記は微妙です。強調の為のものなら、下線や傍点と同じように考えなければならぬかも知れません。

音読デキナイ／音読出来ない／音読できない
レモンの香りが好きだ／檸檬の香りが好きだ
Lemonの香りが好きだ

聞き入る／聴き入る

など漢字や表記の違いもワン・センテンス中に違った文字で出てくる場合は説明が必要かも知れません。

外国語は読む、読まないの前に読めない事が多いです。例えばお隣の国でありながら韓国の文字は読めない人が大多数だと思います。

「안녕하세요：アンニョンハセヨ」は「こん

にちは」という意味で、相手の年齢や関係性に問わず使える表現方法です。

「안녕하십니까（アンニョンハシムニッカ）」も「こんにちは」という意味ですが、職場で上司に使用する際、お年寄りに接する際など、目上の方に対して使用する表現方法だそうです。

その場合頼りになるのは発音記号だと思いますが発音記号を見て発音できる人は少数だと思います。

happy [hæpi]

そもそも音読に関しては、発音記号を見て発音できれば、わざわざ発音記号を読み上げる必要はないですね。前に書かれた単語の発音と同じですから。

読めない文字はまだまだあります。

字幕やテロップなどで、何を言ってるんだか分からない様子を表す場合、「○！※□◇＃△！」←こんなふうに、記号を並べて表現してありますが、こうした文字や言葉にならない「声」を表現する工夫は、特に漫画の世界で試行錯誤が続けられてきました。多く使われる例として、各種記号をでたらめに並べた「◎△\$♪×¥●&%#?!」などが存在します。

これを「まる コーテーションマーク こめまーく…」と読んでも意味が通じません。意味合いを伝えるしか無いのかも知れません。

NHKのドラマ「宙（そら）わたる教室」が放送されています。その中にディスレクシア（読字不全）の青年が出てきます。ディスレクシアとは、学習障害のひとつのタイプとされ、全体的な発達には遅れはないのに文字の読み書きに限定した困難があります。しかし、文字でなく音声や映像であればインプットは可能です。

情文も「マルチメディアデジ書」として制作し提供しています。

音読は視覚障害者の人にも、ディスレクシアにも重要な情報伝達手段です。大切にしたいですね。

なのに、今回も入口のところで紙面が尽きてしまいました。日常、当たり前のように接してきた文字や記号、読み方に関して考えるのも奥深いですね。

しんぱち食堂 西梅田店

【所在地】 大阪市北区曾根崎新地2-1-21
【電話番号】 06-4400-2787
【行き方】 北新地駅から128m
【営業時間】 08:00~14:30 16:00~22:00
【定休日】 無休
【URL】 <https://www.shinpachi-shokudo.com/>

現役で働いていた頃の事です。昼は休憩室に集まり、賑やかにお喋りをしながら昼食を取っていました。その中でセナの故郷、ポルトガルに行きたいなあという話が出て「それなら連れて行ってあげるよ」と軽く答えたのが事の始まりです。話しが広がりボランティアの方から「私の娘も参加させて」とか、とうとう4人の希望が集まりました。レンタカーには5名が乗れるので丁度いい人数です。

セナは何者かも知らないで安請け合いましたのですが、有名なF1レーサーでした。

僕の旅は航空券だけ買って、宿は現地で探していましたが、そのスタイルの了承ももらって、いよいよ出発です。

初日は首都リスボンに宿泊です。そこで驚いたのは、街のあちこちから食欲を誘ういい匂いがするのです。ポルトガルは日本と同じように秋刀魚や鰯を焼いて食べます。それを焼く煙があちこちで上がっていました。

セナの足跡をたどる旅は1冊の本が頼りです。〇〇で食事をしたとか、▽▽で※※をしたとか、頼りない情報ばかりです。町の名前だけは分かるので、現地について聞きまくり。それでも100%、すべて探し当てました。

ポルトガルには城や宮殿、修道院や領主の館など、歴史的に価値の高い建築物を改装した国営ホテル「パラドール」があります。

幸いな事に飛び込みで泊まることも出来ました。ポルトガルの西端には口力岬があり、「ここに地終わり海始まる」の碑があります。遥かアジアから来た道は、この地でとぎれ海に落ちます。ここはユーラシア大陸最西端。大絶壁の先は大西洋が広がり、アメリカ大陸

まで遮るものがありません。

子供の頃は庭先で七輪で鰯を焼いたものですが、煙がすごいです。鰯は、とても栄養豊富な魚で、煙の元は鰯に豊富に含まれている脂で、健脳や血液サラサラに良いとされているEPA・DHAという不飽和脂肪酸です。煙故に家庭から消えた焼き鰯が外食で食べられるのは感動ものです。

そんな、秋刀魚や鰯を食べられる店を発見しました。しんぱち食堂では産地を吟味した20種類を超える焼き魚のメニューを提供しています。肉料理もありますが、ここでは、やはり魚料理でしょう。

僕は迷わず鰯を選びました。鰯定食は2種類あって「3羽いわし定食 671円」「殿様いわし定食 759円」です。何となく殿様を選びました。

味噌汁に、大根おろし、漬物が付いています。魚や干物は独自開発の炭火焼機を使用しているそうで、店の外まで、焼き魚の美味しい匂いが漂ってきます。

最近ではバーベキューをおこなっても、肉以上に鰯が評判です。鰯の脂が、炭の上に落ちて、その煙が鰯を燻製のように燻し、さらに美味しさが広がります。

大好きな鰯を食べることが出来る店が出来て幸せです。また、定食を注文した人には生ビールが150円で飲めるのも嬉しいです。

インバウンドでしょうね、外国の方も多数来られていました。

情文を出て地上を一直線に梅田方面に進み、近鉄堂島ビルから、すぐ先にあります。



対面リーディングQ&A再掲（その1）

この1年で新たに対面リーディングに参加していただいたボランティアさんも少しずつ増えてくれましたので、2019年～2020年に皆さんからご意見をお寄せ頂きました「Q&A」を数回に分けて再掲載いたします。

日々の対面リーディングの活動において、参考になれば幸いです。

Q. 録音中は中断しづらい。どうすれば上手く休憩が取れるでしょうか？

頂いたお答えでは「そのまま、ちょっと休憩させて下さい、と伝える」「喉が渴いたので、など理由を伝えて止めてもらう」など、特に遠慮せずに相手に断って録音を中断する、という意見が大半でした。ただ、中には「どうしても言い出しにくい」「止めるのは悪いのでできる限り我慢して読み続ける」という方もおられました。

限られた時間内での録音のため、出来るだけ多くの量を、と考えるのは分かりませんが、より良い読みを続けるためにも、なるべく無理は避けた方が良いでしょう。途中で止めると言いにくいのであれば、録音を始める前に「1時間くらいで一度休憩させて下さい」とか「喉が渴くので途中で休憩してお茶を頂きます」など、あらかじめ休憩を入れることを申し合わせておくのも一つの方法でしょう。

お互いの考えを伝え合える、対面ならではのメリットを活かしてはどうでしょうか。

Q. 図書を途中から読む時に人名など固有名詞が分からず困っています

人名や地名など、固有名詞の読み方は、本文に初めてその単語が出てきた時にルビが振られていることが多くあります。そのため、前のほうのページを調べることが効果的な方法です。また、途中まで読まれている利用者の方は人名などが分かっているので尋ねてみる、という意見もありました。

対面室には「引き継ぎ表」を置いてありますので、固有名詞や読み方が難しいと感じた単語の読みを記録して、利用者の方の了解のうえで本に挟んでいただくと、次に読む方の読みの助けとなります。ぜひ有効に活用していただければと思います。また、持ち込んだ辞書などでも分からない場合は担当者にお伝えいただければお調べします。遠慮なくご相談下さい。



漢字あれこれ（その23）

対面リーディングボランティア **澤井 稔** さわ いみのる

食べ物の言葉

生活に密着した言葉の一つ。食べ物に関する言葉を集めてみました。

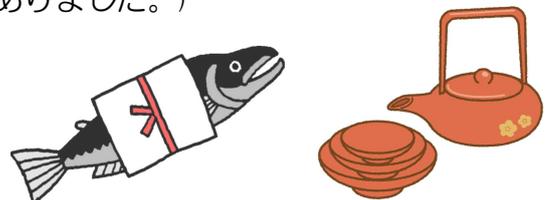
- ① 鯉濃=こいこく（鯉を筒切りにして味噌で濃い目に煮た汁です。）
- ② 潮汁=うしおじる（鯛などを煮て塩だけの味付けをした吸い物です。）
- ③ 時雨煮=しぐれに（蛤などの剥き身に生姜などを加えた佃煮です。）
- ④ 加薬飯=かやくめし（関西で、五目飯のことです。具の他に薬味も入れるから、「加薬」と言います。）
- ⑤ 生湯葉=なまゆば（豆乳を煮て表面にできる薄い膜のことです。）
- ⑥ 杏仁豆腐=あんにんどうふ（杏子の種子を粉にして、寒天で固めたものです。中華料理で点心として出されます。「きょうにんどうふ」とも読みます。）
- ⑦ 水餃子=すいぎょうざ（水またはスープでゆでる餃子ですが、普通は「みずぎょうざ」とは言わないようです。）
- ⑧ 新巻鮭=あらまきざけ（塩をつけて縄で巻いた鮭のことです。荒縄で巻いたので、「荒巻」が本来らしいですが、「新巻」の方が語感のイメージが良いですね。）
- ⑨ 雲丹=うに うに（海胆の卵巣を塩と酒でこねたものです。）

- ⑩ 海鼠腸=このわた なまこ（海鼠の腸の塩辛です。）
- ⑪ 田楽=でんがく（もとは踊りの芸能ですが、豆腐などに串を刺す形が舞の姿に似ていたということです。おでんを指すこともあります。）
- ⑫ 雁擬き=がんもどき（油揚げの一種です。雁の肉と味が似ていると言われていています。）
- ⑬ 米酢=よねず（米で作った酢で、鮭などに使われます。「こめず」とも言います。）
- ⑭ 雑炊=ぞうすい ⑮ 粗塩=あらじお
- ⑯ 搾菜=ザーサイ ⑰ 熟鮓=なれずし
- ⑱ 辣油=ラーユ ⑲ 善哉=ぜんざい
- ⑳ 麩=ふ

飲み物の言葉

幾つか飲み物の言葉も紹介します。

- ① お神酒=おみき（神に供える酒で、もともとは単に酒という意味でした。）
- ② 屠蘇=とそ につけい ほうふう（酒に肉桂、山椒、防風などを浸したもので、中国では屠蘇散と言って邪気を払って長生きを願うという酒のことです。中国でも正月に飲む風習がありました。）



③ 老酒=ラオチュー (中国の醸造酒の一種で、長期熟成させたものです。紹興市でつくられた紹興酒の仲間です。)

⑥ 野点=のだて (野外で茶をたてることです。茶をたてる所作は、「点前(てまえ)」です。)

④ 温燗=ぬるかん (熱燗より温度が低いものです。)

⑦ 般若湯=はんにゃとう (僧仲間での隠語で酒のことです。)

⑤ 濃茶=こいちゃ (抹茶の量を多くしたものです。反対は薄茶です。)

ほんの一部ですが、日常生活の中でたまに顔を出すことが有ります。知っておくと何かの話の種になりそうですね。



おしらせ



・「日本ライトハウス展 ～全国ロービジョンフェア2024」を開催します

12月6日(金)、7日(土)に日本ライトハウス展を開催します。会場は昨年と同じく天満橋OMMビル2階のCホール、Dホールです。

今回は初出展7社を含め43社・団体が出展。さらに視覚支援学校のあん摩・マッサージ体験コーナーを設営。特別ステージでは、視覚以外の感覚で楽しむマジックショーや、パリパラリンピック柔道金メダリストの瀬戸勇次郎氏をお迎えしてパラスポーツの魅力を語っていただくなど、様々なテーマで開催します。

開場時間やアクセスなどの詳細は当館ホームページをご参照下さい。

なお、日本ライトハウス展の開催に伴い、12月6日、7日の対面リーディングは休止いたします。

・12月27日(金)から1月6日(月)まで、対面リーディングはお休みです

当館の冬期休館に伴い、12月27日(金)から1月6日(月)まで、対面リーディングもお休みとなります。

年末年始はいろいろな行事やご家族の帰省など、何かとお忙しいことと思います。現在もコロナ禍以前に比べて数は少ないとはいえ、対面の依頼は日程のぎりぎりまで入る可能性があります。

ご都合が合う日がありましたら、ご協力の程よろしく願いいたします。

扇風機を片付けたとたんに、こたつ布団を出しました。秋はどこに…? 災害や酷暑など自然の力をより強く感じた1年でした。来年は穏やかな年でありますように。(F)

日本ライトハウス 情報文化センター

550-0002 大阪市西区江戸堀1-13-2

06-6136-7704 (対面専用)

06-6441-0039 (サービス部)